

たなつ物 ももの本草も天照らす

日の大神の恵み得てこそ

本居宣長

「たなつ物」は田根つ物で、田に根を下ろした作物で五穀のことをいいます。「百の本草」は色々の草や木や大地に生える千草のこと。「古事記」では、人も青人草と表現されています。そのいずれも自然の太陽の恵みを受けて、初めて生成発展することが出来ます。

天地の万物はもとより、私達が健康でおられることも日の大神（天照大御神）の恩恵によるものです。

祭 事

例	祭		毎年十月九日
大	祭	祈年祭・兼春祭	四月十五日
新嘗	祭	（勤労感謝祭）兼秋祭	十一月二十三日
中	祭	歳旦祭	 一月一日
大	祓		十二月三十一日
小	祭		毎月十五日

平成14年11月

所沢市中富1507番地
神明社々務所発行

宮司宅 電話 049-259-2228
社務所 電話 042-943-1709

三富・富岡総鎮守

神明社

通称 富の神明様

開拓の祈り……産土の神
うぶすな



社務所（平成14年竣工）



社殿

神明社

〈通称〉富の神明様

御祭神

天照大御神
アマテラス オホミカミ

倉稲魂命
ウカノミ タマノミコト

誉田別命
ホシダ ワケノミコト

（応神天皇）

大山祇命
オオヤマツミノミコト

木花開耶姫命
コノハナサケヒメノミコト

追雄命
ツイノオノミコト

神社由緒

当社は元禄九年（一六九六年）同郡川越城主柳沢出羽守領主の節、上富村中富村下富村の三ヶ村を開かれた折、一寺一社の制に基づき一万二千五百坪の地を除地せられ、鎮守のお宮として毘沙門社と多聞院を創立、後年、該院境内に神明社を勧請致しました。時に宝暦十一年（一七六二年）であったと伝えられます。（入間郡誌には宝暦八年と記されています）

村民一同産土神として崇敬しましたが、明治二年に至って神仏分離令により四七三坪を分割し、同年社格制定の節、旧来三ヶ村の鎮守であったことから、村社に列せられました。同六年境内改正により、三、七六四坪を引裂き上地され、現境内地に一、〇〇九坪を第一種官有地に編入されました。又昭和三年三月に埼玉県史蹟保存として三富開拓遺跡に指定されました。尚昭和二十一年二月二十八日に宗教法人として神社規則を設定し社格廃止され埼玉県神社庁の管轄になりました。

武蔵野の開拓

『昔の武蔵野は菅原のはてしなき光景を以って絶類の美を鳴らしているように言い伝えているが、今の武蔵野は林である。』と、国木田独歩がその代表作『武蔵野』のなかで綴っているように、現在では雑木林が武蔵野のシンボルとなっていますが、かつては広大な菅原が続いていました。

当神明社の産土地域の三富（三芳町上富、所沢市中富、下富）・富岡（所沢市神米金、北岩岡、北田、岩岡、岩岡町、所沢新町）地域は、江戸時代の元禄、享保年間に果てしなく続く菅原に鉋を入れて開拓された地域です。元禄七年（一六九四年）三富新田は川越藩主柳沢吉保によって着手されました。近隣の村々から人々が集められ、開発が始まってから約二年後元禄九年（一六九六年）に上富九一屋敷、中富四〇屋敷、下富四九屋敷、合計一八〇屋敷の新しい村ができあがりました。また、これに続く享保年間には富岡地域に所沢新田、久米新田、神谷新田、堀兼新田、北田新



元旦の獅子舞（上富嶺子保存会）



七五三祈願



神明社境内に遷宮になった天神宮

田、岩岡新田が幕府直轄領として開発が行われていきました。

開拓の祈り……

原野の開拓は大変困難をきわめました。武蔵野台地は栄養分が少なく水はけの悪い赤土（関東ローム層）で、開拓農民は大量の堆肥を投入し少しずつ肥沃な土に変えていきました。風の強い日には乾いた赤土が「赤い風」となって舞い上がり、逆に大雨の日には、ぬかるみと化して人々を困らせました。中でも一番苦労したのは水の確保でした。開発時や、また井戸を掘ってからも日照りの時には井戸が涸れてしまい数キロ離れた柳瀬川まで水を汲みに行ったといわれています。

このような自然条件のもとでの厳しい生活ではありましたが、開拓農民たちは根気よく自分の土地を耕し続け、次第に耕地から収量をあげていきました。当時の農民にとっては、やはり新田開発を行い、自らの耕地を保有することはいくことはまたとないチャンスであり、苦闘を乗り越えて夢を実現していったのです。

「富」という地名は、柳沢吉保が『論語』から引用して命名されたと言われます。

曰富之、曰既富矣 曰く之を富まさん既に富めり

又如何加、曰教之焉 又た何をか加えん、曰く之を教えん

『論語』子路編より

開拓地の豊かさは、先ず経済的に富むこと、そして次に教育によって心を富ますこと、これが村の発展につながると考えたのです。開拓者やその子孫達は、こうした願いを持ち汗と土にまみれながら鋤を振るい、作物や樹木を育て慈しみ知恵と工夫を凝らしつつ農作物をたわなに実らせ、幾多の特産物を産む豊かな農耕地をつくりあげていきました。

御祭神説明

当社には開拓者たちの願いを受け私共の大祖神で、人々の為に衣食の道を定め、世の中を明るい慈愛の光をもつて照らします最も尊い神様であります天照大御神を始め、慈悲深い神様とあがめられております八幡様、商売繁昌、五穀の神様で知られる稲荷様、山の神様等祀られ境内には学業の神様であります天神宮も祀られております。

尚、初宮詣、七五三詣、その他厄除清祓、家内安全、交通安全、学業成就、地鎮祭、上棟祭、竣工式、家祓のご祈祷等の諸祈願もご奉仕してまいりますのでお気軽にご来社下さい。



武蔵野の面影を色濃く残す富の里。
先人達の汗と祈りによって開かれた自然豊かな地
明治に合祀された七社も含め
この富の里を産土の地として
鎮守の杜と地域の皆様をお守りいたします

とめ 〈富の里〉



合祀七神社

明治四十年五月十一日

明治四十五年三月二十二日

- ① (現所沢市) 大字神米金字飛鳥野無格社神明社を合祀 (現八雲神社)
- ② (現所沢市) 大字北岩岡字横松の村社八幡神社
- ③ 同大字北向の無格社八幡神社 (現八雲神社)
- ④ 同大字八幡北の無格社八幡神社
- ⑤ 同大字所沢字稲荷窪の村社稲荷神社
- ⑥ 同大字神米金字稲荷木の村社稲荷神社
- ⑦ 同境内社山神社を合祀 (現八雲神社)



① 久米新田／八雲神社



② 北田／八幡神社



③ 岩岡町／八雲神社



④ 岩岡／八幡神社



⑤ 所沢新田／稲荷神社



⑥ 神谷新田／稲荷神社



⑦ 堀兼新田／八雲神社